

海際の小さな山地で濡れと藪に阿鼻叫喚！

## 摩耶山地 金峰山～湯ノ沢岳～摩耶山（中退）

新潟県との県境付近、山形県庄内地方にある摩耶山地。南北に美しく連なる山地を、年末年始に美しくトレースしようと田村さんと計画した。庄内地方出身の庄内お婆この母親曰く「冬にあんなどころ行くの？あんた地吹雪の怖さを知らないからね～」と鼻で笑われた。過去に最上川で特急いなほが突風にあおられ脱線事故が起こっている。そんなところにある摩耶山地、今回最大の問題は積雪量。年末近くなっても強い寒波が来ておらず、ライブカメラを見れば、鶴岡付近の道路真っ黒画像にため息の日々。主峰・摩耶山の標高が 1019m！というそんな低山にどれだけの雪が積もっているのか…。登山道があるのは入山地の金峰山～母狩山～湯ノ沢岳、摩耶山からの下山ルートのみ。金城山長崎根根にひきつづき、藪との交わりは避けられないようである。もちろんお土地柄カラカラの晴天など望むべくもなく、湿度 200%間違いない。まったく救いがたいような摩耶山地において、雪の日高や越後、そして酒で肝臓を鍛えた縦走系メンバーがそろったのは、軟弱リーダーにとって唯一の救いであった。

### 【日程】

2016年 12月 29日(土)  
～2017年 1月 1日(日)

### 【メンバー】

松本 (L)、田村、棚橋、栗原、野口

### 【地形図】

鶴岡、下名川、山五十川、上田沢、木野俣

### 【記】松本ほか

### 12月29日（木）：晴れのち曇り

高速バスが予定より1時間ほど遅れて鶴岡に到着した。金峯山登山口に8時30分に到着。それほど遅くはならなかった。ここからは登山道に沿って登る。積雪は足首程度。山頂にある金峯神社にお参りをしてから、いよいよ縦走開始。曇天または風雪で景色など一切見えずに歩くのかと覚悟を決めていたが、なんとまあ、意外にも晴れて、鶴岡市街地や山頂に雲のかかった月山まで見渡せた。初日にはありがたいことだ。登山道なので藪はうるさくはない、快調に進む。しかし、次の母狩山までが遠い。いくつものピークを越えていかなければならない。とはいえ、いずれも500や600m程度のピークなのだが、おまけに前方に見える母狩山のたかだか751mのピークがやたらでかく聳えて、威圧的なのは気のせいだろうか。母狩山に着くと曇天になり、ぐっと雪の量が増えた。さすが700m越え。ここでわかんを装着。今回は藪対策でスノーシューではなくわかんにした。ラッセル力は落ちるが、藪にひっかかるスノーシューが嫌だったので。

今日の予定は三ノ俣山を越えること。そして、天気と登山道のおかげで無事に行動を終えることができた。三ノ俣山の先、Co704m付近のブナの広がる場所にテントを張った。初日にははなかなかいペースに満足。この先もうまくいけばいいけれど。(松本記)

### 12月30日（金）：曇り時々雪

初日に頑張っただけで予定通りの行程を進めたので、今日が頑張りどころだ。だが、昨日の夜から降り積もった新雪でラッセルがきつい。さらに、昨日の後半くらいから五月蠅くなりだした藪がひどい。やはり途中まで登山道があった初日とは全然違う。

天気は思っていたほど悪くなく、時折視界が開けたりもする。すぐそこに里が見え、ここが里山だということを思い出させる。空荷ラッセルを繰り返して徐々に進むが、今日中に越える予定だった三方倉山には到達できず、三方倉山手前でテントを張った。(野口記)

## 12月31日（土）：曇り時々雪

昨日の内に三方倉山の直下まで来ていたから、今日は簡単に山頂を踏んでスタートと思っていた。ところが出だしから藪が行く手を阻む。視界の悪さがプレッシャーをかけてくる。ようやく山頂に着いたらすでに2時間もかかっていたことに気づき愕然とする。そこから先も、地形図上では緩い下りが続く「稼ぎどころ」と見ていたのに、藪が濃くて遅々として進まない。尾根がヤせていることもあって非常に時間がかかる。しかも藪に雪がついていて全身びしょ濡れ状態。予定では「木野俣」の地図範囲まで入りたいと思っていたけど、まったく無理。2つ目の860mポコ手前で時間切れであった。明日一気に乗り越すには難しい距離が残ってしまった。

今日で2016年も終わり。本年の締めくくりはビショビショシュラフで非常に厳しい晩であった。  
(田村記)

## 2017年1月1日（日）：曇り時々雪

あけましておめでとうございます。

栗原さんのお正月向け朝食に心もお腹も満たされた後、出発。昨晚、予備日は使わないことが確認されたので、今日の行動の途中でエスケープルートを取る可能性大である。Co916.9mの標高点までは尾根が狭くなっているのも藪だろうと思っていたが昨日の行程ほど酷くはなく、覚悟していたよりは順調に進む。しかしストックは途中で畳んで仕舞っていた。

右手に池があるであろう緩やかな地点を通過し、Co915mへの急な藪斜面を登り返す。登り切った所で改めて、摩耶山には向かわずにエスケープルートを取ることを確認する。予備日を使わないとなると、頑張っても半日は足りない。摩耶山まで繋げられないのは残念であるが、この条件でここまでよく頑張ったなあとも思う。予想していた時刻より早くここまで来られたので、今日中に下山可能だろうと松本さんが明日宿泊予定だった民宿に連絡を入れてくれた。

Co915mにてCo803.7mの標高点に進路を取る。ここから下山とはいえ、まだラッセルや登り返しは続く。空身でラッセルすることも。また地形も判別し辛く、田村さんのGPSに導かれて進む。Co903.7mを過ぎると進むべき尾根も顕著になり、そこから1時間強で越沢集落から延びている林道に着く。林道にはラッセルに苦しめられるほどの積雪はなく、お風呂とビールと海の幸を思い浮かべながら黙々と越沢集落をめざす。越沢集落に着くとOBの仁さんが、我々を出迎えて下さった。

予定より早く越沢集落に着いたので雪が雨に変わった中、タクシーを待ち望む。ようやく到着したタクシーに乗り込み、鼠ヶ関の民宿に投宿。思い焦がれていたお風呂、ビール、海の幸に迎えられて、打ち上げ。そして仁さんも故郷の御馳走をご持参の上、訪ねてきて下さった。さんざん飲み食いした後は、久々に暖かい布団に伸び伸び体を委ねられる幸せを感じた。

### **【摩耶山地縦走行動記録】**

12/29 Co100m タクシー下車 8:30—金峯山 10:00—鎧ヶ峯 10:50—母狩山 12:30—三ノ俣山 14:40—Co704m 15:12 C1

12/30 C1 6:30 発—湯ノ沢岳 10:30—Co820m 15:20 C2

12/31 C2 6:40 発—三方倉山 8:30—Co860mポコ手前 15:20 C3

1/1 C3 6:30 発—Co915m 12:20—Co807m 14:30—Co450m 林道 15:00—越沢集落 16:30

初日は晴天だったよ



こんな藪だったり



三方倉山の手前のピークだったような



美しいブナの森もあったり



ラッセルはいつも空荷でしたね～



お疲れさまでした～

